

授業科目名	社会調査学	担当教員	西崎 伸子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第1クォーター		
講義内容	この授業では、文化人類学的な調査(フィールドワーク)の基本的な理論と方法を習得することを目的とする。問題設定、調査の計画と準備、実施(資料・データ収集)、分析、調査倫理などの調査の一連の流れを説明し、おもに質的調査(参与観察, インタビュー)と文献調査の基本的技法の習得を目指す。		
到達目標	社会調査に関する基礎的な考え方・知識を理解することができる		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業の目的・進め方の確認 2. フィールドワークとは：野外科学としてのフィールドワーク 3. 文献研究の技法(1) 文献・Web情報の収集 4. 文献研究の技法(2) 文献・Web情報の活用 5. フィールドワークの方法：質的調査と量的調査 6. インタビュー調査の技法(1) 調査計画 7. インタビュー調査の技法(2) 事例 8. 参与観察の技法(1)：観察について 9. 参与観察の技法(2)：事例 10. 調査データの整理：フィールドノートの整理 11. 調査データの分析：先行研究・データ・分析 12. 社会調査の倫理、まとめのテスト 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業のテーマに関連する書籍などの情報を収集し、目を通しておくこと ・各講義実施後、必要に応じてレポート課題を与えるのでとりくむこと 		
テキスト	テキストは用いず、資料を配布(配信)する。		
参考文献	<p>菅原和孝『フィールドワークへの挑戦―“実践”人類学入門』世界思想社、2006年</p> <p>佐藤郁哉『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社、2002年</p> <p>好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学―質的調査のセンス』光文社新書、2006年</p> <p>岸政彦、石岡丈昇、丸山里美『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016年</p> <p>清水展・小國和子編著『職場・学校で活かす現場グラフィー : ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』明石書店、2021年</p>		
成績評価の基準	課題(50点)と最終授業日に実施する「まとめのテスト」(50点)で評価する。授業に出席していることが成績評価の前提条件になるため、毎回出席をとる。		
履修上の注意 履修要件	履修学生は、社会調査演習をあわせて履修することが望ましい		
実践的教育	該当しない。		
備考欄	定員を超過した場合は抽選する。		